

木工用塗料講習会

開催日 2013年2月23日(土)午後1時～5時

会場 松本市 長野県工業技術総合センター環境・情報技術部門大会議室

参加者数 18名(山本 大原 惣洞 浅村 太田 狐崎 谷 蛭川 岡村 他9名)

報告者:浅村治利

「プレポリマー」の寿化工株式会社、「オリオ2」のキャピタルペイント株式会社より
専門家を招き、塗料の解説、施工法等を実践していただきました。

どちらも含浸型木工塗料としては知名度もあり、使用されている方も多いと思います。

私もオリオ2を使用していることもあり、今回の講習を受けさせていただきました。

プレポリマー、オリオ2ともにウレタンを含む刷毛塗り含浸塗料と言う事で似た特性が
あります。

しかし、仕様書の見出しに双方違いがありました。

まずは寿化工「プレポリマー」ですが、「小木工、家具用木質強化剤」とあります。

講師のご説明でもポリウレタン系樹脂が木の組織に浸透し、木固めをして木の狂いを止める
との説明でした。

プレポリマーを塗布後、ウレタンなどの仕上げ塗料でコーティングして仕上げるのが推奨で
す。

仕上げ塗料と言うより、下地用木固め塗料と言うべきでしょうか。

しかし、家具、木工品を製作している者で、木の狂いを止める「木固め」を目的にプレポリマー
を使用している人はどの程度いるのでしょうか？

私がプレポリマー(オリオ2もそうですが)に期待するのは耐水、耐汚染を兼ねた含浸塗料な
らではの美観です。

実際、上塗りのウレタン塗装をせずにプレポリマーのみで仕上げている方も多いようです。

耐水、耐汚染性能は非常に高そうですので、ウレタン上塗りをしたくない場合はプレポリマー
塗布後、蜜蝋ワックスなどを使用すれば美観にも効果あるかと思います。

ちなみに「木固めエース」「キガタメール」ともにプレポリマーを希釈した製品で

希釈シンナーの違い以外はほぼ同製品と考えてよさそうです。

続いてキャピタルペイント「オリオ2」ですが、こちらは「オイルフィニッシュの質感を保ちながら塗膜性能が飛躍的にアップ」とあります。

オリオ2の成分はA液のヒマシ油+B液のポリウレタン樹脂硬化剤です。

通常家具用オイルは主に乾性油の亜麻仁油が使われる事が多いのですが、乾性油とウレタンの相性が良くない為、不乾性油のヒマシ油が使われているようです。

オリオ2は仕上げ塗料として十分使用できそうです。メンテナンスワックスやオリオフィニッシュといったコーティング剤も用意されています。

オリオ2の効果を十分発揮させる為、サンドペーパーによる擦り込み作業が必要になるそうです。これは実際に実演していただきました。

刷毛にてオリオ2を浸透させた後、サンドペーパー400番にて研磨しながら擦り込みます。

この時使用したサンドペーパーは耐水ペーパーでした。受講者の方で、耐水ペーパーを使用すると黒い粉が残るので白い木には使用しないと言われた方もいました。

拭き取り後、約一晩乾燥させて2回目の塗装をします。

1回目と同じ作業を繰り返しますが、使用するサンドペーパーは600番です。

擦り込みが完了したらウエスで綺麗に拭きあげます。

この擦り込み作業を行うオイル塗装をオイルフィニッシュ、擦り込み作業を省いたオイル塗装をオイルコーティングと分別しているそうです。

擦り込み作業は一手間ですが効果は大きいようです。オリオ2以外のオイル塗装でも実践してみようと思います。

受講者から「オリオ2は塗装の仕上げ表示をどのようにすればよいのか？」という質問もありました。

仕上げ方法は「オイルフィニッシュ」もしくは「オイルコーティング」、使用オイルは「オリオ2(ウレタンオイル)」が良いそうです。

「プレポリマー」と「オリオ2」をどのように使い分けていくか考え方はそれぞれかと思います。

今更かもしれませんが、木製品用オイルの乾燥中に発生するホルムアルデヒドが改めて問題になっているようです。

天然の植物油を使用した自然塗料からも発生します。原因は乾燥中に起こる酸化重合にあります。

多くの人には自然塗料＝安全と認識され、供給側の我々も製品の謳い文句としてオイルは安全だと簡単に言ってしまう事もあったかと思えます。

今後木製品に使用する塗料はどのように選択していけばよいのか？ウレタン塗料やプレポリマー、オリオ2、ガラスコート等のハイブリッド塗料、最近開発盛んな各種水性塗料を含め、改めて考えるいい機会にもなったと思えます。